

各施設実態調査結果

◆対象施設

就学前施設

小学校

中学校

特別支援学校



◆就学前施設実態調査内容◆

問1 これまで子ども読書活動のため取り組んだ内容

(園内での活動)

- ・ 園内での日常的な絵本の読み聞かせを実施。
- ・ 年齢や発達、四季に応じた絵本の提供。
- ・ 子どもの興味や季節に合わせた絵本を選び、五感を通して四季を感じられる機会を提供。
- ・ 職員が絵本を読み聞かせする他、読み聞かせの時間を毎日大切にしている。
- ・ 日々の保育中に絵本を見る（読む）時間を設けている。
- ・ クラス担任がおすすめする絵本をクラス全員に貸出、感想を記入してもらう活動を実施。
- ・ 絵本コーナーを園内に設置し、子どもたちが絵本に触れやすい環境を整備。
- ・ 月刊絵本を導入し、子どもの読書活動の幅を拡大。
- ・ 絵本の回覧を実施し、多様な絵本に触れる機会を提供。

(絵本貸出)

- ・ 毎週絵本の貸出を実施している（家庭で読み聞かせを推進）。
- ・ 貸出絵本には、図書館の配本による絵本を活用。
- ・ 図書館から本を借りて、読み聞かせや貸出に活用。
- ・ 家庭での絵本の読み聞かせを推進するため、自分で選んだ絵本の貸出を実施。
- ・ 週1回の絵本の貸出。
- ・ 親子での絵本の貸出に加え、その感想を親から直接聞き取る活動を行っている。

(保護者との連携)

- ・ クラスだよりや参観日などを通じて、おすすめ絵本を保護者に紹介している。
- ・ 保護者が絵本を読み聞かせする「絵本部（読書部）」の活動がある。
- ・ 保護者に協力を依頼し、絵本の読み聞かせを実施。

(図書館・外部団体との連携)

- ・ 図書館から絵本を配本してもらい、その絵本を読み聞かせや貸出に活用。
- ・ 図書館の協力により、絵本が巡回する仕組みを利用。
- ・ 読み聞かせボランティアや外部公演を月1回依頼。
- ・ 遠足で図書館訪問を実施し、子どもたちが直接図書館を利用する機会を提供。
- ・ おはなし会や講演会などで外部の専門家に協力を依頼。

問2 取り組んだ内容について

① 取り組んだ内容の成果

(親子のふれあい・コミュニケーションの増加)

- ・ 絵本を通して親子のコミュニケーションが増え、ふれあいの時間を持つことができた。
- ・ 親子で絵本を読む時間が増えたり、週1回でも取れるようになった。
- ・ お気に入りの絵本を子どもが見つかることで、保護者もその絵本に関心を持ち、親子の会話が増えた。
- ・ 貸し出した絵本を親子で楽しみ、次回の貸出日を心待ちにしている家庭がある。
- ・ 家庭での絵本読み聞かせをきっかけに、親子のスキンシップが図られ、子どもの身も心も健やかに育っている。
- ・ 感想を書いてもらうことで、絵本を通じた親子の様子が分かり、共有できた。

(読書習慣・興味関心の育成)

- ・ お気に入りの絵本を毎日見たり、自分で好きな絵本を選んだりして絵本に興味関心を持つ様子が見られる。
- ・ 自分で絵本を手にとったり、繰り返し読んでもらおうとする行動が出てきた。
- ・ 子ども同士で1冊の絵本を一緒に見る姿が見られるようになった。
- ・ 絵本からごっこ遊びが広がり、遊びの幅が広がる様子が見られる。
- ・ 興味を持ったものに対して、図鑑を購入したり絵本で調べる姿があり、探求心が深まっている。
- ・ 子どもたちが絵本を好きになったことで、読書習慣が根付き始めている。

(言葉・感性・心の成長)

- ・ 文字に触れることで言葉への関心を持ち、語彙力が育まれている。
- ・ 色々なことへの興味・関心が広がり、豊かな感性や想像力が育まれている。
- ・ 絵本を通じて、相手の気持ちを理解するきっかけが生まれた。
- ・ 保育や家庭での絵本の読み聞かせを通じて、子どもの心が豊かに育っている。
- ・ 物語に触れることで心が豊かになり、創造力・表現力の豊かさが育まれている。

(家庭や施設の取り組みの効果)

- ・ 親子で絵本を読むことで、家庭での読書機会が増えたり、図書館利用が促されている。
- ・ 図書館の配本図書に興味を持ち、親子で図書館を利用する家庭が増えた。
- ・ 絵本コーナーの設置により、様々な絵本に触れたり、新たな絵本を見つける機会が増えた。友達との会話や絵本の貸し出しの利用が促進された。
- ・ 何度も借りる絵本を通じて、子どもが好きな絵本が保護者にも伝わった。

(保護者・職員への影響)

- ・ 保護者自身が「読み聞かせの仕方が分かった」と伝えるようになり、絵本読み聞かせの大切さを感じている。
- ・ 保護者の読み聞かせへの意識が前向きになった。
- ・ 職員も絵本の世界に興味を持ち、読み聞かせの重要性を実感している。
- ・ 保護者も絵本の貸し出しを楽しみにしている様子が見られる。

② 取り組みの結果、明らかになった課題等

(家庭での読み聞かせの課題)

- ・ 家庭での読み聞かせ時間が十分に取れないことがある。
- ・ 借りた絵本が家庭で読まれず、子どもが1人で見るだけで終わっている家庭がある。
- ・ 絵本の読み聞かせが実施されていない家庭がある。
- ・ 一部の保護者は、絵本を字の勉強と捉え、絵本の世界や情緒を楽しむ時間を持たない場合がある。
- ・ 保護者がスマートフォンからの情報に頼り文字を読まない傾向が影響している場合がある。

(保護者への働きかけの必要性)

- ・ 子どもだけでなく保護者も楽しめる、絵本を身近に感じられるイベントや機会の拡充が求められている。
- ・ 絵本の楽しさや育児への活用方法を保護者に伝え、情緒豊かな読書体験を促す必要がある。

(絵本選びの工夫)

- ・ 発達段階に合った絵本選びや、物語への興味・関心を少しずつ伸ばす取り組みが必要。
- ・ 子どもの関心や発達に合わない場合、物語が長いと気持ちが離れてしまうことがある。

(施設環境の課題)

- ・ 小規模園では蔵書数が少なく、充実した絵本環境を整えることが困難。
- ・ 図書館が遠い園の場合、その利用回数が限られる可能性がある。
- ・ 絵本コーナーの入れ替えが忙しい時に十分に行えない場合がある。

問 4 子ども読書活動推進のため、今後取り組みを予定していること

- ・ 現在の取り組みを継続。
- ・ 絵本や昔話からごっこ遊びへつなげることで、子どもが様々な内容に興味を持つ機会を提供する。
- ・ 保護者の読み聞かせ会の実施。
- ・ 絵本の楽しさや、絵本を通じた子どものつぶやきを保護者に共有する取り組み。
- ・ 絵本コーナーの充実。
- ・ 地域の読み聞かせグループへ呼びかけを行い、絵本に触れる機会を多様な形で提供する。
- ・ 引き続き、絵本の読み聞かせに積極的に取り組む。
- ・ 読み聞かせの専門家による公演を開催し、保護者も参加できる機会を設ける。
- ・ 絵本の貸出日を週1回設けつつ、園が選定した絵本の回覧を行う。
- ・ 劇遊びを実施する。
- ・ 年間数冊の絵本を新たに購入し、園の蔵書数を増やして絵本に親しむ機会を拡充する。

問 5 学校や関係機関支援として、公共図書館や行政に期待すること

- ・ 図書館からの定期的な絵本貸出を継続希望、季節に合わせた内容の選書が楽しみ。
- ・ 絵本の巡回サービスが助けになっている。今後も継続を希望。
- ・ 市内他地域で実施している図書館からの絵本の貸出サービスを自園にも導入希望。
- ・ 図書館からの毎月の配本を継続希望。
- ・ 配本を2か月に1度から毎月に増やしてほしい。
- ・ 幼稚園では購入が難しいような内容の絵本の充実を期待。

問 6 その他、子ども読書活動推進のための具体的な提案

- ・ 利用頻度の高い人気の絵本の寄贈の呼びかけ。
- ・ 移動図書館を園に来てもらえる仕組みづくり。
- ・ 子ども向けと大人向けそれぞれに絵本や本の紹介を行い、親子で本への親しみが深まる取り組みの実施。
- ・ 読み聞かせのボランティア派遣を事業化し、すべての園で利用できる仕組みの構築。
- ・ 図書館でのイベント実施（土日開催）
- ・ 就学前施設を対象とした読み聞かせ会の開催



◆小学校実態調査内容◆

問1 これまで子ども読書活動のため取り組んだ内容

(読書活動の時間の確保)

- ・ 朝読書や昼休みの読書活動時間の設定。
- ・ 各学級で読書の時間を設け、定期的に読書に親しむ機会を作っている。
- ・ 国語での読み聞かせ活動の実施。(児童が自分で本を選んで練習し、読み聞かせを行う)

(図書室の活用・貸出活動)

- ・ 教科等学習と関連させた平行読書を実施(市図書館の協力を得て)。
- ・ 図書室利用デーの設定。
- ・ 昼休みの週1回以上の図書室開放。
- ・ 図書館との連携で学期ごとに配本し、様々な本に触れる環境を提供。

(ボランティアや地域との連携)

- ・ 読み聞かせボランティアによる各学年・各学級での読み聞かせ(週1回や月2回など)。
- ・ 定期的な読み聞かせ実施。
- ・ 修繕ボランティアによる図書環境の整備。
- ・ 地域ボランティアや校長先生による定期的な読み聞かせ。
- ・ 校外授業で地域の図書館を訪問し、借りた本の紹介カードを作成して発表を行った。

(イベント活動・特別企画)

- ・ 読書ビンゴの実施。ビンゴのマス目をジャンルやテーマ別に設定。ビンゴ達成者には手作りのしおりをプレゼントなど。
- ・ 読書賞・多読賞を設け、低・中・高学年別にページ数を基準に表彰。
- ・ 読書マラソンの実施。
- ・ 中学年対象のおはなし会を開催。
- ・ ろうどくコンテスト(年2~3回)やろうどく集会の実施。
- ・ 必読書賞を設定し、目標読書を達成した児童を校内で称揚(放送などで紹介)。

(読書記録の活用)

- ・ 読書通帳やカードで記録を作成。
- ・ 中・高学年ではタブレットを活用して読書記録を確認。
- ・ 図書委員会や教員が児童に読書記録の呼び掛けを行い、記録を継続している。

(学級文庫や書籍の充実)

- ・ 学級文庫の本の充実・定期的な入れ替えを実施。
- ・ 図書館や電子図書館との連携で本を配本し、読書環境を整備。
- ・ リクエスト本の購入や児童の要望に応えた蔵書増加。
- ・ タブレット端末に絵本アプリを導入。

(委員会等の活動)

- ・ 図書委員による読み聞かせ活動の定期的実施。
- ・ 図書委員によるイベント企画(読書ビンゴ、読書キャンペーン、放送など)。
- ・ 図書委員による「おすすめの本」コーナー設置やポスター掲示。
- ・ 図書委員による読書量が分かる掲示の実施。
- ・ 毎月「図書館だより」と校長先生のおすすめの本を紹介。

問2 取り組んだ内容について

① 取り組んだ内容の成果

(読書への意欲向上と習慣の定着)

- ・ 読書に親しむ児童が増え、読書習慣が身に付きつつある。
- ・ 読書意欲が少しずつ高まり、進んで読書しようとする児童が増えている。
- ・ 読書キャンペーンを通じて、児童が様々な本を進んで読むようになった。
- ・ 読書賞や必読書賞を目指しながら読書する児童が増えた。
- ・ 週1回以上図書室を利用し、全校の児童が継続的に読書活動に取り組む環境が整った。
- ・ 読書冊数やページ数を意識しながら読む習慣が定着した。
- ・ 読んだ本を記録することで、達成感が「見える化」され、読書への意欲を高めた。
- ・ ビンゴ形式や読書マラソンの取り組みにより、様々なジャンルの本を読む機会が増えた。

(読書を通じた児童の成長)

- ・ 朝読書により、児童が一日を落ち着いてスタートできた。
- ・ 季節や行事に合った本や、単元に関連する本を読むことで、児童の興味・関心が高まったり学習が深まったりする効果があった。
- ・ 多学年を通して他者と交流する読書活動の広がりが見られた。
- ・ 図書委員会児童の主体性や積極性が育った。
- ・ 読書を通じて、児童の興味や関心を広げるきっかけづくりができた。

(図書室やイベントの活用)

- ・ 図書委員会イベントの実施により、図書室利用や本の貸出冊数が増加した。
- ・ 図書室を開放することで、児童が進んで読書に取り組む姿が見られた。
- ・ 週1回の「本を借りる日」を設定し、ほとんどの児童が図書室を訪れる習慣がついた。
- ・ ポスターによる本の紹介がきっかけとなり、本を借りる児童がいた。
- ・ 各学年で授業の時間を活用し、図書室利用を促進する取り組みが成果を上げた。
- ・ 紹介カードを作って発表する授業を行った後、他の児童が紹介した本に興味を持って読む姿が見られた。

(読み聞かせの効果)

- ・ 読み聞かせにより、児童が様々なジャンルの本や新しい本に触れる機会が増えた。
- ・ 季節や行事に合った本の読み聞かせで、児童の興味・関心が高まる結果が見られた。
- ・ ボランティアや学級担任による読み聞かせで、児童の読書活動の活性化が促進された。

(学校全体での取り組みの成果)

- ・ 全校で朝読書の時間を実施し、読書への意識が高まり、読書に関する話題が広がった。
- ・ 学級や図書室に児童の興味を考慮した本を設置し、読書活動を活性化した。
- ・ 集会を通じて、児童が他学年にも読書の楽しさを広げようとする気持ちが高まった。

(新しい読書手段の活用)

- ・ 電子図書館の利用により、時間や場所に縛られず読書ができる環境が整った。
- ・ 読書記録を取ることで一人当たりの読むページ数が増加した。

② 取り組みの結果、明らかとなった課題等

(児童の読書習慣の課題)

- ・ 読書離れの傾向がある。
- ・ デジタル図書館の本を読む児童が高学年で増加している一方、紙媒体の本への関心が低下している。
- ・ 読書量の個人差が大きく、読む本が偏る傾向がある。
- ・ 読書をする時間の確保が難しい児童がいる。
- ・ 家庭で読書をする児童が少ない。
- ・ 高学年になるほど、読み聞かせや読書ビンゴ等の活動への参加率が低下する。
- ・ 物語など文字数の多い本を手取る児童が少ない。
- ・ 全体として、書籍への興味・関心が低い児童がまだ多い。
- ・ 自主的に本を読む児童が少なく、読書が好きな児童とそうではない児童の二極化が見られる。

(読書活動の企画・内容に関する課題)

- ・ 高学年では長い文章や字の多い本を苦手とする児童が、読書ビンゴが達成しにくいことがある。
- ・ ビンゴ活動を意識していない児童もおり、読書意欲の向上につながるかは不明である。
- ・ ページ数や読書冊数に偏りや確認ミスが見られる場合がある。
- ・ 図書室の中に掲示された情報が、一部の児童のみを対象にしてしまう場面があった。
- ・ 休み時間や放課後などの自主的な読書活動が少ない。

(教員等の負担に関する課題)

- ・ 教員が図書の本の選定や図書室の整備を行う負担が大きい。
- ・ ボランティアの協力など、学校外部との連携が必要。

問4 子ども読書活動推進のため、今後取り組みを予定していること

- ・ 学年団単位でのお話会の継続実施。
- ・ おすすめの本紹介を行い、読書が苦手な児童でも本に親しむことができる活動を実施。
- ・ 図書委員会によるイベントの開催や本紹介の実施。
- ・ 図書委員会でおすすめの本を紹介するポスターの作成や、本に親しんでいる児童の紹介。
- ・ 「家庭読書週間」を毎月第二週に設置し、家庭で読書や読み聞かせをする活動を推進。
- ・ 図書委員会での「今月の本」紹介を毎月実施。
- ・ 読書ラリーの開催。
- ・ 子どもたちに人気のある本を注文し、新しく入れ替える対応を継続。
- ・ 児童の読書冊数を調べ、多読児童に図書委員からしおりを配布する取り組み。
- ・ 図書室前に読書冊数が多い児童の名前を掲示。
- ・ 学級文庫の充実。
- ・ 図書委員による「多読賞」を3学期に表彰。
- ・ 読書ビンゴを開催し、達成した児童にはしおりをプレゼントする活動を継続。
- ・ おすすめの本コーナーの設置。
- ・ 歴読コンテスト(12月)の開催。
- ・ 図書館見学(2年生)を実施。
- ・ 教職員おすすめの本を図書室前に掲示し、それらをまとめたパンフレットを作成・配布。
- ・ 児童の興味・関心、発達段階に合わせた本を購入し、学級図書や図書室の充実を図る。
- ・ 廊下の一部を利用した図書スペースの蔵書数を計画的に増加。
- ・ 図書館訪問での様子を保護者に伝え、家庭での図書館利用を促す。

問5 学校や関係機関支援として、公共図書館や行政に期待すること

- ・ 教科等と関連した図書の充実を希望。
- ・ 学校図書館司書の配置を希望（専任や非常勤でも良いので）。
- ・ 学校の図書室に専任の人員を週 2～3 回程度配置してほしい。
- ・ 図書の管理や貸出の電子化、そして図書購入時の登録作業の電子化の実現を希望。
- ・ 図書館が遠くにある地域でも本が借りられるよう巡回車の導入を希望。
- ・ 電子図書の取り扱いを継続してほしい。
- ・ 新刊本や流行の児童向け本に関する情報提供を希望。
- ・ 各教科の学習と関連する図書の展示を希望。
- ・ 授業等で必要な本を貸し出すサービスの継続を希望。
- ・ 図書館との情報共有を通じて、児童が読書に親しむ機会を増やしてほしい。
- ・ 各教科で必要な本を、人数分揃えて提供してほしい。
- ・ 図書館からの定期的な配本サービスを継続希望。
- ・ 図書館の配本や見学、イベントへの支援の継続を希望。
- ・ 図書館との連携が図られていることに感謝しており、引き続き支援を希望。

問5 その他、子ども読書活動推進のための具体的な提案

- ・ 著名絵本作家等による来市・講演やおはなし会の充実。
- ・ 昼休み（13:00～13:15）に各校で小さなお話会を開催。
- ・ 図書館職員による学校への出張読み聞かせ。
- ・ 読みやすい図書・楽しい図書をもっと身近にするための本の紹介。
- ・ 市の読書マラソンを学校で紹介し、参加する児童を増やす取り組みの実施。
- ・ 小・中学校に専任の司書教諭を配置。
- ・ 電子図書館の需要増加を見据えた電子書籍の蔵書数の増加。



◆中学校実態調査内容◆

問1 これまで子ども読書活動のため取り組んだ内容

(読書時間の確保)

- ・ 朝読書の実施
- ・ 毎朝 20 分間の読書時間の設定
- ・ 朝の読書活動を継続して実施
- ・ 週に 1 回、放課後 20 分間の図書室開館を実施

(図書室・図書館の利用促進)

- ・ 図書館での陳列の工夫
- ・ 長期休みの前の貸し出し
- ・ 昼休みの移動図書館の実施
- ・ 電子図書の利用促進

(蔵書の充実)

- ・ 学級文庫の設置
- ・ 生徒の実態に応じた図書の選定
- ・ 小中合同の図書室から中学生向けの本を教室そばに移し、自由に本を手にとれる環境を整備

(授業・委員会活動等)

- ・ 図書委員会によるポップやポスターの作成
- ・ 各学級でブックトークの実施
- ・ 読書感想画を知ってもらうための授業実践
- ・ 好きな本を選んでプリントにまとめ、紹介する授業の実施

問2 取り組んだ内容について

① 取り組んだ内容の成果

(生徒の読書意欲向上)

- ・ 生徒の近くに図書を配置することで、読書への意欲を高める効果があった。
- ・ 図書館の陳列を工夫し、生徒が本に興味を持つ機会が増加した。
- ・ ブックトークで紹介された本を実際に借りる生徒が現れ、読書への意欲が向上した。
- ・ アンケートによる生徒の実態に応じた図書の選定が、学校図書館利用の機会増加につながった

(読書活動の習慣化)

- ・ 朝読書の時間を設けることで、落ち着いて読書をする時間を確保できた。
- ・ 休み時間に本を手にとったり読書をしたりする生徒の姿が見られるようになった。

(図書館利用の工夫)

- ・ 昼休みの移動図書館では学級の前までカートで図書を運び、興味を持つ生徒を増やす取り組みが行われた。

② 取り組みの結果、明らかとなった課題等

(学校図書館の活用に関する課題)

- ・ 学校図書館に興味を持つ生徒が少ない。
- ・ 学校図書館を活用した授業の実施が難しい環境にある。
- ・ 昼休みの時間が限られており、生徒がゆっくり本を見ることができないため、貸出までつながりにくい状態にある。

(電子図書館の活用に関する課題)

- ・ 電子図書館が十分に活用されていない。

問3 子ども読書活動推進のため、今後取り組みを予定していること

- ・ 今している活動を継続。
- ・ 図書委員会の活動 (POP の作成など)。
- ・ 読書感想画を推進するチラシを配布。
- ・ 学校図書館に置いてほしい図書のアンケートを実施。
- ・ 昼休みや放課後の開館が難しい状況を踏まえ、今後の具体的な取組を検討。
- ・ 将来的に「読み聞かせ」活動を導入する可能性を検討。
- ・ おすすめの本コーナーの設置。

問4 学校や関係機関支援として、公共図書館や行政に期待すること

- ・ 生徒が市立図書館の本を学校で予約・受け取りできる仕組みを希望。
- ・ 図書室の環境整備に使える費用の支援を希望 (本棚や内装の修繕・交換など)。
- ・ 図書館司書による運営面での支援を希望 (教員負担軽減のため)。
- ・ 定期的な配本サービスの継続を希望。

問5 その他、子ども読書活動推進のための具体的な提案

- ・ 図書館支援員の配置。
- ・ 昼休みの読書時間確保。
- ・ 図書貸し出しのバーコード化。
- ・ NIE*1 実践指定校の授業や学校図書館を活用した授業を参観する機会の提供。

*1 学校などで新聞を教材として活用する活動 (Newspaper in Education)。一般社団法人日本新聞協会から認定された NIE 指定校は、2 年間の指定期間に新聞協会と新聞社が新聞購読料を全額補助する新聞提供事業を実施する。